

第5次千早赤阪村総合計画 第5回審議会を終えての審議委員の感想

第5次千早赤阪村総合計画 第5回審議会に出席頂いた審議委員の皆さまから、5回にわたる審議会を終えての感想を頂きました。

内容としては、計画の各基本施策で「住民や事業所が取り組むこと」が設けられていることから、「計画策定に関わった審議委員の皆さまが、今後どのようなことに取り組んで行くのか」を伺いました。

※並びは実際の発言順。※記載内容は発言内容をテープ起こししたもの。

山口委員：

5回にわたってお疲れさまでした。私は、ハローワーク河内長野から参っております、所長の山口と申します。

今回、このような会に参加させていただくのは初めてのことでした。村の将来あるべき姿について皆様がお話しされている様子を見て、私は最初から、この資料はすごく丁寧に書かれていると感じたのですが、まず生活あつての話、その後で雇用や仕事の話があれば、もう少し意見が言えたかなと思います。実際、ここで発言することが全然なくて残念でした。

今後、この答申に従ってこの村がどんどん良くなっていけますように、一緒に応援していきたいと思います。今までどうもありがとうございました。

阪野委員：

お疲れさまです。農協の赤阪支店で勤めさせていただいています。

皆さんと連携しながら、今後、農業所得増大や地域貢献ができるよう、こちらからの意見や現場の意見を集約し、本店を通じてこれからも協力させていただきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

堀切委員：

森林組合の堀切です。いろいろありがとうございました。ご議論の中でも村の多方面の内容ということで、おまとめが大変だったと思います。私たちも議論の中で、施策の中でお金のひも付けの議論ができていない。それが実務の世界なのかと思いながら、お話をお聞きしながら、発言させていただいていました。

実際、我々組織は、この千早にも組合員さんがいらっしゃる中で、林業なり、村の山を守っていく上では、引き続きいろいろなご支援を頂きたいというのが森林組合からのご意見でもございますので、付けさせていただきます。

當麻委員：

村で教育に関わらせていただいている立場として、村の良さ、少人数であるからこそ1人1人を大事にした、個に応じた丁寧な教育ができることを入れていただけて良かったです。また、村に対する郷土愛、愛着、村に住んでいてよかった、村で育ってよかったという子どもたちをこれからも育てていけたらと思います。

そのために、いろいろな教育に対する施策を有効に活用しながら、教育だけでなく、幅広くこれだけ詳しくまとめていただいた総合計画をしっかりと生かして、将来、たくましい村の発展があればいいと願っております。ありがとうございました。

東條委員：

私は結婚してからずっとこの村に住んでいます。私がここで子育てをしていく上で、村の皆さんは暖かい方たちばかりでした。今の村の子どもたちも、私の子どもと同じ環境で育ってくれたらと思います。

高齢者の方たちが孤独を感じていらっしゃるのではないかと、周りで感じる人が多いので、高齢者の方たちと子どもたちが交流できる場があればいいと感じています。村が元気付くようなものになっていただけたらと思います。ありがとうございました。

山本委員：

前回の審議会で、パブリックコメントの方法について意見をさせていただきましたが、いろいろな場所にパブリックコメントのお知らせや、地区長さんにも配ってくださっているということで、ありがたく思いますが、結果的には3名で、残念に思います。

あと8年でこの紙面だけに終わらずに、少しでも1歩1歩進んでいけたらと思います。村民の方の村を良くしようという思い、声を上げる、思いを伝えることができる村になってほしいと思います。

総合計画作成にあたっては、時間といろいろな工夫と頭を使ってくださり、ご苦労だったと思いますし、意見を受け取ってくださって、ありがたく思います。ありがとうございました。

多田委員：

何も分からないまま、村民として4回ほど出席させていただき、いろいろ勉強になりました。1つ分からないことがあります。4回終わったところで思ったのは、先日「棚田夢灯り」に出店という形で参加させてもらいました。いろいろな人に買いに来てほしいのでPRをしましたが、みんな村からお金がしっかり出ていると思っていて、そこでなぜお金を払って入る所があるのとみんな不思議に思っていました。そのため行かない人が結構います。また、村民のほとんどの人は、道の駅で働いている人の給料が村から出ていると思っていますが、実はそうではないということなど、関わったから知ったことがたくさんありました。

村民が一般的に思っていることと、行政がされていることと、棚田を守ろうとして動いてくれている人の孤立というか、うまく流れていない部分がたくさんあると思うので、その辺がうまく、意見がしっかり通るようないい村になればいいと思いました。

田中委員：

初めての委員で、すごく勉強になりました。選んでいただいてありがとうございました。この総合計画が絵に描いた餅にならないように、ここから実施計画に基づいて年度計画と年度の予算が付いて実行されていくということで、より良くなっていくために掲げた数値目標を3年ごとにチェック・アクションしていくということは、これから大事だと感じました。行政の方と議会の運営を、これからも興味を持って見ていきたいと思いました。個人でできることは非常に微々たることだと感じていますが、私は「ちはやあかさかくらす」で活動も行っています。少しでも何か役に立っているのではないかと勝手に思っています。村の方々に暖かい声をかけていただくことも多いので、そういう声を聞きながら、自分にできることをしっかり1歩ずつやっていきたいと感じた、この総合計画の活動でした。ありがとうございました。

田村登委員：

最初に、事務局の方にお礼を申し上げます。私が、ちょっと気になったことがあると言ったつもりだったのですが、真剣に聞いていただき、いい（案）をさらに練り上げていこうとしていただいて、事務局が一生懸命やっていただいていると痛感いたしました。私は、人権協会の会長として人選されたと思いますが、人権に関する発言をあまりしておりません。申し訳ありません。それだけ十分配慮された答申（案）だと思います。今、田中委員が絵に描いた餅にならないようにとおっしゃいましたが、私もそう思います。過去に役所に関わらせていただいたこともありましたが、過去の総合計画にも関わったりしていましたが、過去のは全然浮かんできません。立派な絵でいい作品ほど汚れてはいけないので大事にしまってしまう。そういうことのないように、せめてキャッチフレーズだけでも印象に残るような工夫を今後していただきたいという要望です。目標人口の数字は細かいですし、この数字を10年間言い続けて、例えば広報紙にずっと書き続けたとしても、その数字に届かないのではないかと思います。もう一つ、将来像にある「唯一」という言葉、これは役場の中で考えられたのでしょうか、非常にいい言葉だと思います。大阪府で唯一の村。これは、中身よりも名称がそうになっているだけで、「唯一」という言葉をアピールしていく。「唯一に出会えるんだ」と繰り返すことで、私も生きている限りはこの村民ですので、そのたびにこの内容を思い出しますし、また、関心をお持ちの方もその言葉を聞くたびに理解してみようかと。3年たってからもう一回やり直すのではなく、当然、毎月毎月、事有るごとに見直していただかなくてはならないと感じました。ありがとうございました。

西野委員：

私は、社会福祉協議会の代表として来ております。少子高齢化がどんどん進んでいます。各項目の目標を見ると、思いきりジャンプすれば届くような数値を設定されていますが、実際、あれもこれもするのはなかなか厳しいかなと思います。あまりにも数が多いし、お金のかかる項目もありますので、村の財政を見た場

合、非常に厳しいと思います。担当課長さんにリーダーシップを執っていただいて、私たちも協力したいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

野村委員：

ありがとうございます。今回、審議会に参加させていただきまして、知らないこともたくさんあると思いました。本当に勉強させていただきました。

認定こども園げんきこども園の園長をさせていただいております。今、園児が110名おり、来年度の入園希望者も申し込みされているところです。今年は、他市からの引っ越しの方も4家庭ほどありました。

個人的な感想ですが、この千早赤阪村は、子どもを育てやすい地域だと思います。一人っ子はいらっしゃらず、一家庭のお子さんの数は平均して3、4名、多い家庭では9名いらっしゃいますので、それだけ子育てしやすい地域ではないかと思います。

園としては、これからも子どもたちにより良い教育、保育を提供できるように、一生懸命頑張らせていただきます。子どもたちには無限の可能性があるので、子どもたちの輝く未来のために、村のために、少しでも力になれることがありましたら、どのようなことでもさせていただきたいと思っていますので、これからもよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

松井委員：

私は、商工会の立場として今回審議会に参加させていただきました。5回の審議会で素晴らしい総合計画になっていると思います。

富田林市、太子町、河南町、千早赤阪村の1市2町1村が商工会のエリアになって、総合計画の委員になり、参加させていただいて、本当に各市町とも素晴らしい事業計画を策定されているのですが、策定だけで終わるのではなくて、今後だと思っています。今後、5年、10年、20年と行政、村民、各種団体が一致団結して、私どもの商工会も、商工業の、特に零細企業の指導等を行っておりますので、どんどん活用していただければと思います。

井関委員：

村としても予算が潤沢にあるわけでもないのに、できることを最大限努力することになると思います。

私は観光協会の会長です。このたび千早地区で、モンベルという大きな企業の店ができ、イメージづくりとしても非常に前向きな話もあります。観光だけではなく、いろいろな産業で千早赤阪村にも仕事をつくり、自立できるような人間を呼び込んで、人口を増やすのが一つの解決策になるのではないかと思います。観光協会の会長としても、観光業界が最大限活性するように努力していきたいと思っています。よろしくお願いします。

藤浦委員：

今後の村の発展のためには、人口問題など、ますます難しい問題が山積していると思われます。

これまで審議会が5回開催されていますが、先ほどから絵に描いた餅にならないようにという発言もありました。私も、そういうことにならないようにと思っているのが実感です。計画されていることが、今後、ますます発展することを願う次第です。

矢田委員：

区長会から参加させていただきました。今回、総合計画審議会は、全般にわたっていろいろ議論していただき、それを拝聴した中で、今まで知らなかったことがほとんどで、本当に勉強になりました。

村の一番の問題は、少子化対策に尽きるのではないかと思います。子育てについては、この村は相当充実しているという話を今まで聞き及んでおります。今回の計画の中では、その充実している施策を、さらにこの8年間でこうしていくのだという施策を出しておられます。ただ、8年間でやったらいいということではなく、1年でも早く施策を実施していけたらと考えております。どうか、よろしくお願いいたします。

服部委員：

今回、この総合計画に携わることができて、本当に良かったと思っております。私は6、7年前に小吹台に引っ越してきました。私自身も自然が好きですし、この村は自然豊かでいい環境だと思っております。

今年の4月に議員に当選させていただき、いろいろと外から見ても、先ほど多田委員が言われたように、情報の伝達不足というか、風通しの悪さのようなものが若干感じられます。いろいろな人がいますので一枚岩になることは難しいと思いますが、できるだけ村民も行政も皆さんで手を取り合い、共存共栄で、少しでも村を良くしたいという思いは皆さん一緒だと思いますので、そういう思いをこの計画で実現していけたらいいと思います。これからもこの計画どおり進めていけるように、頑張っていきたいと思います。

田村陽委員：

これまでの5回の会議で、さまざまな意見を言わせていただき、いろいろとご迷惑をお掛けしたところもあると思っております。

この総合計画は、総合計画審議会の前から、私個人としては思い入れが強かった部分で、ずっと数値目標の明確な設定を求めてまいりました。今回それを採用していただいた点に関して、お礼を申し上げたいと思います。

4年間議員をさせていただいている間、行政として目標へ向かって行く姿を感じたことは、正直一度もなかったと思います。今回、こうやって施策指標を重要な政策目標として掲げたわけですから、ぜひ、今後8年間で数値目標を何としても達成するのだという行政としての姿を見せていただきたいと思います。

個人的なことになりますが、この会議の最中、仲野課長代理から逆質問を頂いたことがありました。普段、議員と行政という関係では、どうしても議員から質問をして、行政から答弁していただく形になるので、非常に新鮮な思いがいたしました。ぜひ、これからも議員と行政の立場を越えて、積極的に活発な議論をさせていただけたらと思います。ありがとうございました。

仲野副会長：

副会長という役職を頂きましたが、何もできず、会長におんぶにだっこをしていただきまして、まず、お礼を申し上げます。ありがとうございます。

この総合計画の中で私自身感じたことは、自然環境、農産物の充実という項目が出てきております。農業委員会として、今後地域の皆様方にご協力を頂き、また、私も率先して組織の中でこういうものを進めていけたらと感じたところです。

本当に皆様方のご協力に対して、感謝申し上げる次第でございます。ありがとうございます。

増田会長：

会長として、一言感想とお礼を述べさせていただきたいと思います。

活発なご議論をいただきました委員の皆さん方には、お礼を申し上げたいと思います。また、事務局の方は、委員の皆さん方の意見をくみ取っていただき反映する形で、かなりご努力いただいたということで、事務局の皆さん方にも御礼申し上げたいと思います。

頂いた意見すべてを反映できたかということ、できていない部分も多々あるかと思います。極力意見が盛りこめるようにという形で対応させていただいたつもりでございます。もう2、3点意識したことの一つは、こういう総合計画策定に向けて、いろいろな所でお手伝いするのですが、市町村の名前を見ずに施策を見たらどこも同じということが多々あります。今回の総合計画に関しては、千早赤阪村という言葉が消したとしても、読んでみると千早赤阪村がイメージできるという形で、かなり地域性や皆さんの意見がある一定盛り込めたのではないかと思います。地域性をいかに反映するかということを大事にさせていただきました。

もう1点は、これを絵に描いた餅に終えるのではなくてという話。あるいは予算までひも付けできていませんというご意見も多々ありました。この構成の中で、現状と課題、施策の取り組み、指標が出てくるのは大体、皆一緒ですが、まだ施策のレベルまでは書けないけれども、思いとして、今後の方向性はどういうふうを考えていったらいいのかという辺りは、ダイレクトに施策とはつながっていませんが、かなり積極的に今後の方向性は書いていただいています。

もう一つ、今日は、皆さん方の言葉に感動しました。通常、この総合計画を作ると、「施策を担う行政の責任です」等とよく言われますが、このページの最後にも「住民や事業者が取り組むこと」と書いていて、この総合計画は、行政の目標と同時に、村民の方々、あるいは村内で営業される方々の1つの共有する目標だという形で、これを共有していただ

きたいということが非常に大きな思いです。やはり、問題点だけでも共有できたり、課題だけでもみんなで立場を越えて共有できると解決策につながっていきますので、ぜひともその辺はお願いしたい。

また、これも行政の中でよく言うのですが、総合計画ができれば、最低限、村の職員の方は熟読いただきたい。これは、目標であると同時に、これを展開していくときの1つの武器にもなるので、行政の方も1ページから最終ページまで、ぜひとも熟読いただいて共有いただきたい。これは村民にお願いするだけではなく、職員のお1人お1人に、ぜひともお願いしたいと思っております

最後に、これをローリングして、3年ピッチで物事を見直し、実現できているかという進捗管理が、ある意味絵に描いた餅に終えない重要な方法論でございます。ここで記載されている進捗管理の方法論を駆使していただき、実現化につなげていただければと思います。最後に、委員の皆さん並びに事務局の皆さんに、かなり至らない会長だったかもしれませんが、お許しいたいて、御礼の言葉に変えたいと思います。どうもありがとうございました。